

避難誘導・緊急連絡・応急処置について

(必ずお読み下さい)

- ・主催者は不測の災害・緊急時に備え、消火設備・非常口の位置・避難経路など前もってご確認ください。併せて、来館者の避難誘導方法・緊急連絡、応急処置などの計画を立てるようにしてください。
- ・万一、火災・地震等の事態が発生したときは、催しものを中断又は中止し、アルカスSASEBO職員の指示に従って、主催者が来場者の避難誘導をしてください。(下記参照)
- ・事故などが発生したときは、直ちにアルカスSASEBO1階事務所までご連絡ください。
- ・看板やサイン類を設置される場合には、場所の制限があります。特に非常扉の前や防火シャッターの下は絶対に置かないで下さい。
- ・避難誘導経路については事前に「施設平面図」をご確認ください。非常の際には避難誘導係員を配置していただきます。
- ・施設の定員を超えての利用はできませんので、定員は必ず守ってください。
[定員] 大ホール1階席:983席(うち車椅子席10席) 2階席:546席 3階席:471席
中ホール:500席(うち車椅子席4席)
イベントホール:ロールバックチェア180席 可動席170席
- ・上演中のホール入口(ガラス扉)は非常時の脱出口となるため、施錠しないようにしてください。(開場までは部分施錠可)
- ・アルカスSASEBOでは、館内3箇所にAED(自動体外式除細動器)を設置しています。突然心停止状態が発生した場合、救急隊員に引き渡すまでの間の現場での早期対策が患者の蘇生の機会を増大させる手段のひとつとして認知されています。いざという時に活用してください。
[設置場所] 1階:事務所前 2階:トイレ前 3階:会議室前ロビー
- ・避難誘導経路の確認やAED使用方法等について、希望される方にはレクチャーを行います。ご希望の方は、アルカスSASEBO管理課までお申し付けください。

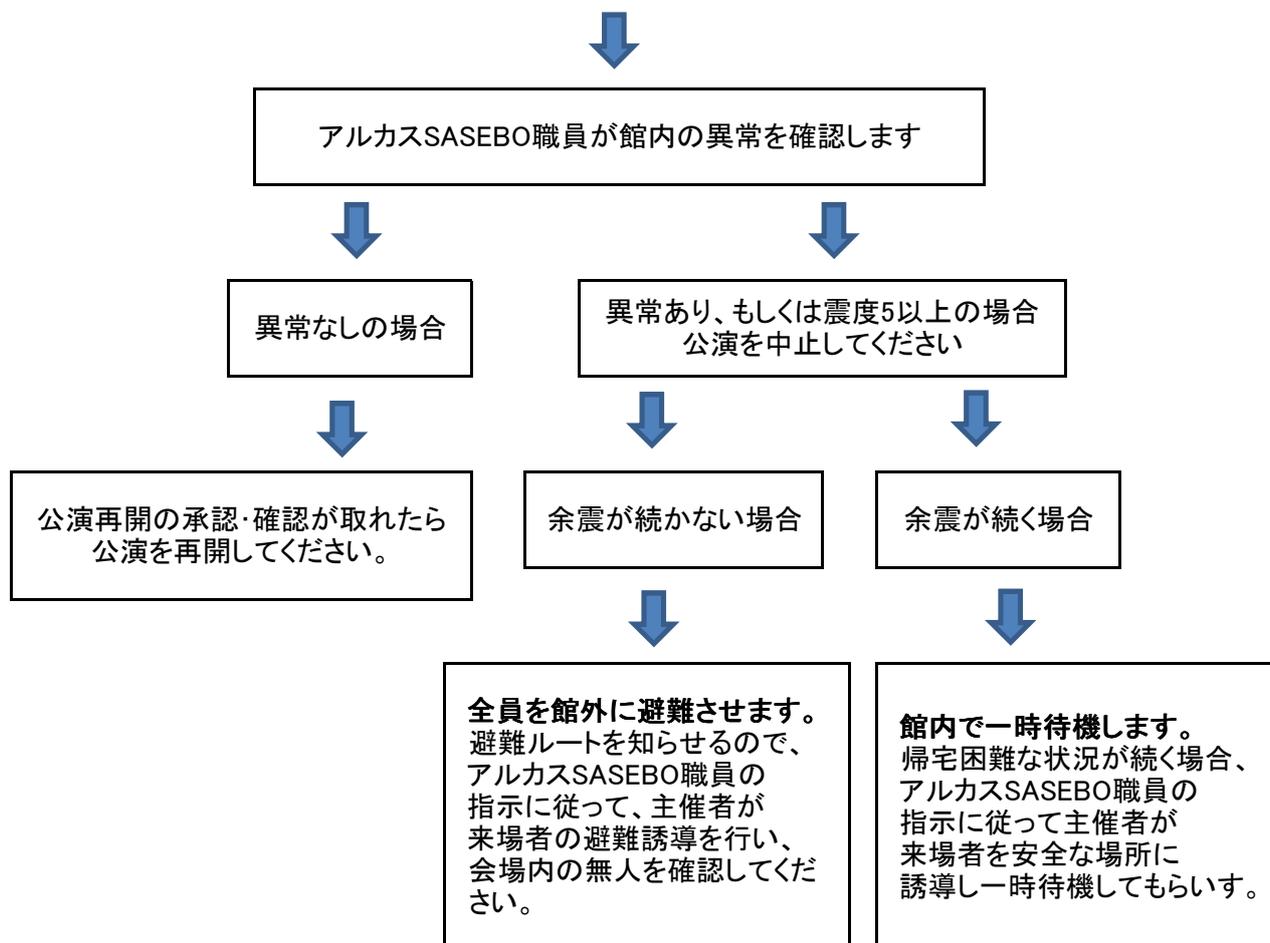
アルカスSASEBOでは、次の項目の一つにでも該当すれば、公演を中止していただくように定めています。

- 1、火災で初期消火失敗の場合
- 2、地震の場合
 - ① 震度が5を超えたとき
 - ② 余震が続くとき
 - ③ 負傷者がいるとき
 - ④ エレベーターに閉じ込め・落下物・倒壊物があるとき
 - ⑤ 水道・電気・ガス・電話の異常があるとき

その他不明な点はアルカスSASEBO管理課までご連絡ください。
電話:0956-42-1111 FAX:0956-24-0051

避難誘導～地震の場合～

- ・地震が発生した場合は、催しものを一時中断してください。
- ・事務所から連絡があるまで、安全な姿勢でお客様を待機させてください。
- ・主催者から「只今地震を感知し、公演を一時中断させていただきます。外へ飛び出したりせず、次の指示があるまで安全な姿勢で待機ください」「落ち着いてください」と来場者に声かけをしてください。



避難誘導～火災の場合～

- ・火災が発生した場合は、催しものを一時中断してください。
- ・事務所から連絡があるまで、お客様を待機させてください。
- ・主催者から「只今火災を感知し、公演を一時中断させていただいています。ただ今確認中です。外へ飛び出したりせず、次の指示があるまでそのまま待機ください」と来場者に声かけをしてください。



アルカスSASEBO職員が火災の確認と初期消火を行います



初期消火が成功した場合



初期消火失敗の場合



アルカスSASEBO職員が館内の異常を確認します。



公演再開の確認が取れたら
公演を再開してください。



- 全員避難の準備をしてください。
- ・アルカスSASEBO職員より、主催者へ来場者の避難誘導経路を指示します。
 - ・主催者は舞台上でメガホンなどを使用し、落ち着いて行動するよう注意をうながしてから、避難誘導を開始してください。
 - ・避難が完了したらアルカスSASEBO職員に報告してください。



- 全館避難後の対応
- ・避難中、救助を必要とする負傷者を発見したら職員へ連絡してください。
 - ・負傷者の発生時は、火災の影響がないところで応急救護措置を行います。

案内上の注意

- ・館内には鍵のツマミにカバーがしてあるものが数箇所あります。
非常の場合は、カバーを割り中のツマミを回して開錠してください。
- ・避難の際、エレベーター、エスカレーターは使用しないでください。
エレベーター内にいる時は、全ての階のボタンを押し、開いた階で直ちに降りてください。
- ・事務所に火災信号が入ると、通用口は完全開放され、ホールの扉はストッパーが解除されます。
大ホールは、ステッププラザ側の電子鍵が自動開錠されます。
(ただし、大ホール楽屋口は閉まるので、手動で開けてください。)

視覚障害者の誘導方法

- ・肩や腕を貸す形で、半歩前を歩く。
- ・視覚障害者を押したりひっぱたりしない。
- ・誘導しているとき、周りの状況を伝える。
- ・方向を示す時は、時計の針の位置で伝える。
(例えば、時計の文字盤による方向は、右は3時、左は9時、正面は12時と考える。)
- ・聴覚障害者はアナウンスが聞こえないため「聴覚障害者はいませんか」などのプラカードを掲げたり、肩をたたいたりする配慮が必要。

【コミュニケーションの方法】

- 筆談(ひつだん、紙に書いて伝える)
- ・筆記用具がなければ、相手の手のひらに指先で文字を書いたり、
- ・空間にゆっくりとひらがなで字を書きながら口を大きく開いて話しかける。
- 読話(どくわ)
- ・話す口の形を見て、内容を理解されます。
- ・障害を持つ方の顔(正面)を見て、口を大きく開いてはっきりとゆっくり話しかける。
ラジオの情報を伝える。

身体障害者・肢体不自由者(車椅子など)の支援方法

- ・エレベーターが止まると、他の階に階段を使用して移動することができないため、
援助者が複数必要。車椅子の押し方や避難の方法は、障害者(及び家族)と相談する。
- ・見た目では、ハンディがあると解らなくても、呼吸器や内臓に疾患がある人・膀胱や直腸に
障害のある人などもあります。
そういった人が困っていたら、緊急連絡先を聞き、そこに連絡して、その後の対応に協力する。